

受理日	血対番号	感染症(PT)	出典	概要	
2005/9/22	50104	HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトリンパ球向性ウイルス(HTLV) - I とHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。	
2005/9/22	50105	HTLV	Transfusion.2005;45:1151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。	13
2005/9/22	50106	インフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月~4月のベトナム北部におけるヒの高病原性インフルエンザA(H5N1)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。	
2005/11/21	50167	インフルエンザ	Nature 2005;437:1108	ベトナムのトリインフルエンザH5N1型感染者において、タミフル(oseltamivir)耐性菌が発見された。	
2005/9/22	50106	インフルエンザ	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。	
2005/10/27	50143	インフルエンザ	New England J of Medicine 2005;352:1839-42	世界規模でのインフルエンザ流行への警告。	
2005/9/22	50106	ウエストナイルウイルス	CDC/EID,11(8) 1294-1296,2005	米国で、入院7日前に発熱、頭痛、精神的変調をきたした男性が、アリゾナ州の病院に2004年7月7日に入院した。この患者のCSF(脳脊髄液)の所見はウイルス性脳炎と一致していた。7月7日及び14日に採取されたCSFサンプルはELISAによるWNV IgM抗体陽性で、血清サンプルについてはPRNT法によりWNVのIgMが7月7日から14日に4倍上昇し、WNV感染が確認された。また、WNV発症から8日目(7月7日に採取)の尿サンプルについてはRT-PCR法によりWNV RNA陽性であり、8日目の尿サンプル(WNV Arizona JW 2004)の遺伝子配列結果はWNV 株(NY 2000-crow3356)と99.7%一致した。この報告はWNV脳炎の患者である人の尿からWNV RNAが検出された最初の症例である。	14
2005/9/22	50106	ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。	
2005/9/26	50109	ウエストナイルウイルス	CBER June 2005	FDAは、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基ずく成分の回収・隔離、すなわち、有効期間内の輸血製剤の隔離・回収や発症後120日までの期間の供血血液を回収することと、原料血漿がすでに分画用にプールされていた場合には回収の必要はないとするなど、ウエストナイルに係る改訂勧告を提案。	15
2005/10/24	50133	ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。2003年と04年のウエストナイルウイルスRNANATの迅速な実施により、陽性供血者519名が特定され、1000以上の成分製剤を排除できた。	16